

はばたき

2014. No. 76

夢を語ろう



- 理事長ご挨拶 P 2
- 夢を語ろう P 4・5

理事長ご挨拶



理事長
鈴木 碩

春の訪れが待ち遠しい時期となつてまいりました。

また、平素より社会福祉法人大久保学園に対しまして、格別のご理解とご支援を賜わりまして厚くお礼申し上げます。本年におきまして、旧年に増してのご支援とご鞭撻を頂きますようお願い申し上げます。

さて、昨年を顧みますと、安倍内閣の発足による金融経済対策の閣議決定、参議院選での「ねじれ」の解消など、国内の政治と経済環境が大きく変化し、景気回復への期待が高まった年でした。また2020年東京五輪・パラリンピックの東京招致に成功し、久々に将来への明るい話題もたらされました。一方で、東日本大震災からの復興、復旧は依然として急務の課題として残り、新たな自然災害も多発した一年でもありました。また、超高齢化社会の到来により、医療や社会保障と税の見直しは、消費税の8%の増税が決定し、さら

には今後10%の増税でも足りないもので、今後様々な改革が避けて通れないとされており、我国の行く末が平坦なものではないということが示唆されています。

このような状況の中で「障害者の方々が安心して暮らせる地域づくり」の一端を担う役割を果たして行くべき私達の行く道もやはり平坦なものではないと自覚をしているものであります。社会福祉事業をとりまく環境は、戦後からの措置制度からの脱却を求めた社会福祉基礎構造改革により大きく変化しました。それは、社会福祉の分野においても、いまだに制度の改正がなされております。昨年4月には、全面施行されて一年余りの「自立支援法」がその理念や骨子をほとんど残しながら、「障害者総合支援法」と衣替えをしたところであります。この目まぐるしく変革していく障害者福祉制度が、はたして私達が日常的に関わり、支援をしている障害者の皆さんやご家族の方々の生活の実態や課題に適切に対応し、その解決に役立っているのかどうかという事に対して各方面からの検証が待たれるところであり

私達がかねてから、障害者福祉制

度がどのように変わろうとも、私達が

担う仕事の目的やその姿勢は変わらないとの信念のもとにその時々に必要な

支援の提供を心掛けてきました。この

ことは今後も変わることはないのでは

ありますが、一方でその支援は安定した

良質な支援を継続的に提供しつづける

ことが出来てはじめて障害者の皆様の

力となれるという特性があります。そ

れまで利用していた支援がある日突然

なくなってしまうことがあると、それ

までの生活の維持が困難になり、利用

者さんはとても困る事となります。そ

うならないために、事業の継続とその

質を担保することは支援を提供する

法人の第一義的な義務であります。そ

の為に、目まぐるしく変わっていく

社会福祉（障害福祉）環境の変化を

的確にとらえ、利用者さんのニーズに

沿った適切な支援を過不足なく提供

し続ける為の体制を整えて行く必要

があります。そこで私達は、「障害者

自立支援法」の全面施行を機に、各

事業の円滑な推進と更なる活性化、

そして将来への展望を模索しつつ、組

織の再編と人材の登用を断行したところ

であります。今後とも真に社会福

祉法人大久保学園に求められる期待

とニーズにできる限り速やかに実効的

な取り組みができるよう役職員一丸と

なつて、利用者さんやご家族の方々の

が大事であると考えております。

障害者福祉や社会の在り方は、今

やノーマライゼーションの理念を超えて、

インクルージョン（共生社会）の実現を

標榜しています。その実現の為に私達

はあらゆる努力をしていく決意をして

いるものであります。しかしながら、

今後私達が歩む道は決して平坦では

なく、直面している課題も少なからず

存在している現実があります。これら

の課題に向き合い、解決への努力を重

ねていくものであります。推進力は

一層の生活の向上を求める利用者さん

と真摯に向き合い、その関係性に悩み

ながらも共感を深め、日夜表裏なく

各自の業務にひたむきに取り組んでく

れる職員たちの存在であります。彼ら

が今後一層精進できるように、環境の

整備に努め、人材の育成に将来を託

していくことが肝要であると認識して

いるものであります。

甚々微力ではありますが、利用者

さんやご家族の皆様が必要とした時

に、必要な施設サービスを提供でき

るように、社会福祉法人の使命として

法人内の各事業所が一体となった事業

の展開をしてまいりたいと思います。

今後ともよろしくご指導賜りますよ

う重ねてお願い申し上げます。

今後ともよろしくご指導賜りますよ

う重ねてお願い申し上げます、ご挨拶と

させていただきます。

より快適に

地域生活支援センター



利用者の皆さん、そして働く職員の皆さんが少しでも快適に活動の出来る環境を整えました。倉庫になっていた体育館は広々とした作業を、畑で働く園芸班にくつろげる休憩場所、多くの方を迎え入れてお役に立てるよう相談センターに、個室の単独短期棟は15部屋となりました。大切に、そして活発に!!

体育館



単独短期棟



農園芸トイレ・シャワー室

こころに火を

竹内 憲一

農園芸班に配属になり早十数年、夢を追いつけ今日に至る。夢を追う事は楽しい事であり、楽しさがないと夢は見ることすら出来ません。

夢とは何か、「一番になること」です。農園芸班の売り上げが年間1000万円を超える事が出来るようになり、利用者の飛躍的な意欲、技術、役割の向上が伺え、皆プライドを持って日々の作業に取り組んでいます。このような状況を近年客観的に眺めていると、涙腺が緩んでしまいます。年のせいなのか？ いや、彼らのひたむきな仕事への熱意を素直に受け入れると当然の感情なのです。

農園芸の作業に限らず、やるからには全力でありたいと思っています。過去を振り返る時、少しの余裕もなく、本気で頑張ったか自問自答してみます。一度の人生、そんなに偉業を成し遂げる事は自分の能力から考えれば不可能です。ならばいつか解らぬ人生のタイムリミットまで邁進するまでと決めていきます。

現在農園芸班はある程度の作業基盤は確立されてきたと思われませんが、まだ一番になっていません。言うなれば夢の途中。みんなの力は無限大。その可能性にかけることが自分の夢なのかもしれない。またこれほど楽しい夢を見る事が出来る皆に感謝しています。



オシャレで楽しい毎日を

松田 あかり

私は学生時代に、美容福祉という分野の勉強をしていました。美容福祉は、福祉の現場において、美容を道具として利用者さんの生活の質を高めることを目的としています。

日課を繰り返す利用者さんには生活に張りが必要で、「オシャレをする」自分の意識が外に向かう」と言われており、気持ちの活性化にも繋がるそうです。メイクは生活に張りを与え、マッサージはリラクゼーション効果をもたらします。また、美容は自然なコミュニケーションシップに繋がるので、普段よりも親密なコミュニケーションをとることが出来ます。

生活の質を高める上で、美容はとても良いと思います。利用者さんにメイク、ネイル、マッサージなどの美容を通して、ワクワクするような日々を過ごして頂きたいと思っています。これからは少しずつ、美容のための時間を作っていきたいと思います。



居心地の良い場所

田尻 彩

利用者にとつての家は自宅の次に大久保学園です。家はどこよりも一番落ち着ける居心地の良い空間でなければならぬと思っています。その空間作りをするのが我々職員の重要な役割の一つです。その空間作りをする一つとして清潔感だと思います。ピカピカの窓、埃のない部屋、澄み切った空気……挙げればきりが無いくらい清潔を保つには沢山の手を掛けていく事が必要です。しかし、どれも職員の日々の積み重ねで出来ることだと思います。実際、現状では私自身行き届かない点もあり、改めて今考えると利用者の皆さんに居心地の良い空間作りを提供しきれていない部分があると反省しています。

建物の新しい、古いに関係なく今ある空間でいかに工夫出来るか努力していきたいです。そして、どこよりも居心地が良いと思ってもらえるような場所、また保護者の方にも安心して頂けるような空間作りをしていきたいと思っています。また、その為には清潔感だけでは無く、常に笑顔忘れず利用者さんが安心して頂ける様な職員でありたいと思います。

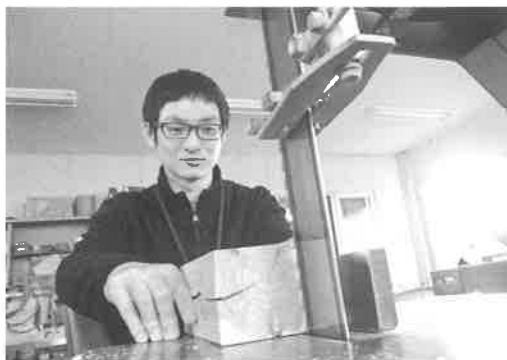


木工魂

飯田 光洋

私の夢は木工班の製品を利用者自身でたくさん作る事と、施設が地域で一つのお店のような役割を持つ事です。

製品製作時にアイディアを用いて利用者に工程を伝え、「もっともっと作りたい」と言っても



らえるようにしたい。そして利用者のこういった気持ちに添えるべく、毎日汗だくになって熱い想いをもって利用者の支えになることが私の醍醐味でありたいです。

また、施設の地域化と地域の施設化を図りたい。こんな言葉はありませんが、施設が地域の中の一つでありたい。利用者が施設の外に出た時に職員の眼だけでは完全に安全に過ごせない現状があります。利用者に地域の方からも声をかけて頂けるような世の中になれば、より自然な生活ができるはずです。

我々施設の職員は製作した物を持って利用者と一緒に地域の方々へ販売して、私達の生活と活動を知って頂くことにもっともっと力を注いでいきたいです。

音楽の素晴らしさ

光風みどり園 鈴木里奈

日々利用者の皆さんと一緒に仕事に取り組んでいる中で、ふと思うのは仕事の中で利用者さんと関わることはあっても、仕事以外で関わる時間は少ないな……と。毎日決められた作業をするだけではなく、何か新しい活動を取り入れてみたい！と感じています。私の所属している製袋班ではお昼休みにラジオ体操を流して運動をしています。座ってくつろいでいた利用者さんも音楽が流れ始めると、立ち上がって楽しそうに身体を動かすのです。その様子を見てみると音楽を日々の生活の中に取り入れてみたら、普段の活動では見られない利用者さんの変化が見られるのでは……。私も何度か施設間の交流会や行事でダンスを踊ってきましたが、利用者さんの音楽やダンスに対する盛り上がりや良さを常に肌で感じています。仕事一筋の活動の中に音楽を取り入れていき、利用者の皆さんがより楽しく通園出来る環境を今後作っていかれたらと感じています。これからも利用者の皆さんの笑顔がいっぱい溢れる楽しい施設にしていきたいです。



今はケアホーム

木下 誠

東日本大震災を機に、出版業者から以前から心残りとなっていた福祉の世界への転職を決定しました。ヘルパー2級の資格を取得し、福祉を学ぶため夜間一年間学校へと通いながら昼間は地域活動支援センターや通所施設での仕事を経験しました。社会福祉士の資格を取得し昨年4月からはケアホームでの勤務となり、利用者さんの生活の場での支援を経験する日々を通し、徐々に利用者さんの楽しみは何か？と考えるようになりました。ケアホームでは食事を楽しみにしている利用者さんの顔が見られます。美味しい食事を作ることは大変ですが、笑顔を見られるのは私のほげみにもなっています。栄養士が考えている献立は野菜も多く使われ、健康管理の一面も併せ持っています。利用者さんの健康や安全を日々確保しつつ、楽しみの幅をいかに広げられるか？“地域”での生活が重視されている今、外出支援をはじめケアホームだからこそできる地域生活支援を見つけていきたいと思っています。



憶 記 る 地

毎日の積み重ね

光風みどり園 関本 憲吾



キーの経験が無い自分でも、すごい技術であることがブラウン管越しに伝わってきて、「障害」というハンデを感じさせない勇ましさに感動したことを今でも覚えています。それが障害者スポーツ、福祉の分野に興味を持ったきっかけでした。

大学では福祉を専攻し、ボランティア活動に参加する中で出会ったのが、知的に障害を持つ子供達でした。一人ひとりの笑顔の純粹さに引かれ、もつと接していきたい、知っていききたいという気持ちを抱きました。

同時期、大学でも陸上競技を続けていたこともあり、いつかは障害者スポーツの分野で陸上競技の楽しさを伝えていきたいという想いも抱いていました。その時に出会ったのが大久保学園という施設でした。利用者さんに陸上競技で全国レベルの方がいたり、それ以外にも駅伝大会等に出場しているこの施設に勤められたら、障害者スポーツという目標に近づける、利用者さんと一緒に走れるという希望を抱き、大久保学園の門を叩きました。

業務に就いてから駅伝大会等の担当の他に利用者さんとの陸上競技トレーニングも行ってきました。

現在、私は船橋市から指定管理を受けている船橋市光風みどり園の園芸班で利用者さんと一緒に「皆が喜んでもらえるような良い花を作る」という目標に向けて、日々、花の栽培に携わっています。

利用者さんとの信頼関係、花の栽培は一筋縄ではいきません。これはスポーツも一緒で、「毎日の積み重ね」があるからこそ、少しずつ結果に繋がっていくのだと思います。道半ばには反省も多いですが、私は、それらの反省を次に活かして利用者さんへの支援を「毎日の積み重ね」、多くの成功体験や信頼できる支援員との出会いを、利用者さん達に伝えていける様、努力していきたいと思っています。

一九九八年、高校生だった頃、私は毎日陸上競技の練習に明け暮れていました。体調を崩し練習に参加できずにいた時、気晴らしに点けたテレビで見た映像が「長野パラリンピック」のアルペンスキーの映像でした。ス

やりがいのある仕事

大久保学園 和久 尊彦



す。相手の事をよく知らなければただのありがた迷惑になってしまう事もあります。相手をよく知り、何を求めているのか、自分に何が出せるのかを理解してやっとなの為になる事が出来るのだと思います。

大学の選択時に福祉の道を知り、福祉の専攻と同時に知的障害の方と関わるボランティア活動をしてきました。ボランティア活動では月に1度同じ利用者さんが5人程参加して公園散策や外出等に出掛けていました。毎月同じ利用者さん5人程ですが、だからこそ利用者さんの事をよく見ることが出来る為ボランティア活動での先輩から細かく利用者さんの特徴等をなどを引き継いでもらう事ができ、また私たちが関わる事で利用者さん個人の少しずつ変化していく特徴を感じ、共有や引き継ぐことが出来ました。それを基に利用者さんに何をしてあげられるのかを考えていきました。月に1度の数時間しか利用者さんに関わる事がない為、何も考えずに過ごすのもないまま終わってしまいます。自分は利用者さんに何をしてあげられるのか、少しでもボール遊びが出来るようになろう、公園のまだ行っていない場所に連れてってあげよう、こないだ急に立ち止まったところには何があるのか、ほんのささいな事でも意味のある時間にしていきました。

福祉という世界は利用者さん個人の性格、生活習慣、癖、等などをよく知らないと本当の意味で支援をする事ができません。また一人の視点では偏った見方になってしまう為、色々な人が関わっていく必要もあります。そこには一切の妥協が許されず本気で向き合わなければなりません。私は本気で仕事が出来るとこの福祉という世界に携われることに誇りに思っています。

小さい頃から働くなら人の為に働きたいと思っていました。何の為に本気で頑張れるか考えた時に私の場合はお金の為に働くといつか甘えがでたり、妥協してしまうと思いました。人の為、それは突き詰めれば突き詰めるほどキリがないもので

それぞれの施設だより

大久保学園



(高橋)

昨年度まで忘年会という行事で12月に行っていたのですが、今年度より班別食事会として12、1月と分かれて行いました。この食事会は、利用者の皆さんが所属する各作業班の売上金と、保護者会からの助成を主に、班の仲間で外食をして1年間お疲れ様でしたと労う会です。係の職員はまずアンケートを採り、条件の合うお店を探して日程調整、計画を立てます。この時期になると、利用者の皆さんから「今年はどこに行くの?」「いつ行くの?」と質問攻めです。「楽しみにしているからね。」と声を掛けられると、期待に込められるものになくてはいけないうし使命感を感じさせられます。

当日は、1年をゆくり振り返る方、食事を楽しまれる方と様々ですが、学園での生活とはまた違った表情が見受けられます。「美味しかったよありがたう。」「また来年もよろしくね。」「まあまあだったな。」と皆さんの感想を頂きますが、次年度を更により良いものにできるよう励みにし、班別食事会を通じて更なる作業意欲、生活の質の向上に繋げていくために目標を持って、努めていきたいと思っております。

ふなばし工房



昨年の12月、利用者忘年会を行いました。7日土曜日は農園芸班とみらい工芸館で、千葉ニュータウンの「パパーノ」イタリアンバイキングのお店に行きました。イタリアンという事で、パスタやピザなどが並び、皆さん大興奮。美味しくお腹いっぱい頂きました。

14日土曜日は食品加工班、製袋班、ブルーランジェリーが、八千代緑が丘の「すたみな太郎」焼肉やお寿司など色々な物が並ぶバイキングのお店に行きました。肉を焼くのは皆さん手慣れたもので、毎回驚かされます。

忘年会も無事終わり、ある利用者さんは満足気な顔で「来年も忘年会に来れるように、作業頑張ります」と一言。忘年会を目標に日々の作業を頑張るのいいのではないかと思います。利用者の皆さんの笑顔で、職員も元氣付けられる、そんな忘年会でした。(松尾)

光風みどり園



平成25年の11月から新たにPC(パソコン)加工班が立ち上がりしました。パソコンの周辺電子機器(プリンターやサーバー等)を分解して、その部品を分別していきます。

電子機器の中には数多くのレアメタル(貴重な金属)が含まれており、都市鉱山とも呼ばれ上手に取りだして分別していくと、高値で売却できるとの事!現在は船橋市の情報システム課という部署から役所内の不要になったPCや周辺機器を譲り受け、解体をしています。所属している皆さんも今では、ほぼ自分の力で細かくなるまで解体・分別が出来るようになりました。また、納期も無い為、利用者さんのペースで作業が出来て、他の班ではなかなか落ち着かなかつたメンバーも穏やかに集中して活動が出来ています。作業自体は不要になった機械の解体ですが、それは、その瞬間から新たな資源へと再生します。不用品から価値有るものを生産する意味で「加工班」としました。皆で日々新たな価値を生み出しています。(入澤)

地域生活支援センター

今年は年明けから新しいグループホームが開所しました。グループホームは生活の場所として、要望が多く、たくさんの方が期待していることと思います。しかしながら、用地取得、インフラの整備等、新しいホームの建設はなかなか難しい課題があります。今回のホームは、賃貸マンションの1室を利用するという今までにない形の住まいの場となります。定員は男性3名です。敷地内には何棟かマンションが建っており、非常に静かな環境です。グループホームについては来年度から制度変更も行われます。さまざまな形の住まいの場を用意できれば、地域での暮らしの幅が広がり、より多くの人が地域で生活出来るようになります。

もう一つ今年力を入れて取り組まなければならぬのが、サービス等利用計画です。平成24年度から障害福祉サービスを利用している方全員を対象にして作成される事が決まったもので、平成26年度までに作る事になっています。て相談支援事業所を中心に法人全体で取り組んでいきますので、ご協力を宜しくお願いします。(柳原)



寄付金

平成二十五年七月二十五日
平成二十六年一月二十日

〔後援会〕

吉内美保・永田笑子・加藤金太郎・中川聖治
加藤房治・澤百合子・浅井栄三・布施充成
布施義高・植草米子・川瀬育子・逆井保
中村靖雄・嶋島英二・竹原カエ・大川勝幸
大堀勝朗・相内勝正・川嶋安子・野尻武生
末広自動車(株)・小林英三・木原勝美・友菊隆志
中島たき・岡田敬司・津浦邦次・青木常子
長野健一・高橋 實・本 忠信・柴垣謙介
奥村 博・川上久雄・鈴木成子・山崎つたい
奥田寛美・清田久子・近藤裕昭・中村迪子
西井建二・戸倉陽子・齋藤増子・大沼政子
福谷長久・飯塚浩之・千葉理子・青柳美和子
武正理恵・吉田幸男・渡辺和雄・村林説子
本澤正行・永沼哲郎(株)エイシント
岩崎与一・田河宣行・中島久志・関口多比子
岸 勝弘・加増錦太郎・石塚 宏・廣瀬平二郎
枘 勇・桐山 昇・石塚 渡・梅津正信
成瀬敏之・矢島弘文・鈴木 繁・高橋多恵子
長田全弘・矢山作・折田梅男・高安裕子
林 静子・笹山晴夫・菅谷くに江
(株)サクライスポーツ・青野準一・永沼貴子
篠 義一・新里玲子・岩崎信雄・太田黒泰子
渡邊久美子・室井真子・米澤頼子・岡野悦子
斉藤尚夫・長谷部健二・平井好江・鈴木壽子
原田キク子・中村恵美子・高橋晴昭・長尾義秋
田中伸幸・安田早苗・長浦健二・岩田善二
岩田久子・太田康明・杉本浩司・遠藤 登
川尻儀一・末延久子・平野義久
北総保険企画 宮本 忠・唐鎌良江・大木正行
渡邊昭夫・大澤征一・三浦幹夫・長島隆男
柳原憲治・石井莊也・小高正文(株)メフィス
宮崎正光・板橋いと子(株)高橋電設・大場富美子
平山吉己・染谷寛治・平塚芳昭・柴田茂昭

〔一般〕

和田浩行・船橋市社会福祉協議会
鎌ヶ谷市社会福祉協議会

(敬称略)

ありがとうございます

学園祭

平成二十五年十一月三日

お祝い金品

(株)神原・理容ホック・(株)東進ビルシステム
中島たき・(株)熊谷組首都圏支店
(株)高橋電設・林園緑地建設(株)
(株)グローバル・(有)ヒダカアート工房
(有)デザインミブ・依知川一成
北辰文化倶楽部
社会福祉法人さざんか会ゆたか福祉苑
社会福祉住宅エーゼン
(有)船橋住宅エーゼン
社会福祉法人いちいの会・松田久子
社会福祉法人社会福祉協議会・河野美智江
社会福祉法人心聖会
社会福祉法人南台五光福祉協会やまぶき園
壇原架雄・北総保険企画(株)
光風みどり園保護者会・大川勝幸
岡田敬司・奥村 博・馬淵建設(株)
(株)丸鈴・京葉式典(株)・加藤金太郎
両宮育子・高野シヅ子・鈴木 碩
豊富地区連合町会・長田全弘・植草米子
大堀勝朗・大久保学園保護者会・白倉きよ
青木常子・石川清・唐鎌吉徳・矢口勇雄
(株)三共総合建築事務所・鈴木成子
船橋防災・本澤正行・川瀬育子
田中みどり・野尻武生・篠 義一・奥田寛美
社会福祉法人千葉県福祉支援施設光園
東京都千葉福祉園・船橋東ライオンズクラブ
初山敏雄・鈴木健三・森 孝子
(株)伊賀屋・(有)習志野製袋
(株)天野さく・泉建総・大新東(株)
(株)ヒロハマ・(有)ウィンマックス

(敬称略)

ありがとうございます

光風みどり園

平成二十五年
八月三十一日

納涼祭

お祝い金品

佐瀬喜浩・大新東(株)・(有)ウィンマックス
わかたけ社会センター・河野美智江
平野公夫・篠 義一・橋本秀雄
齊木信造・(株)丸鈴

(敬称略)

ありがとうございます

平成25年度

苦情解決窓口 相談内容

(1月現在)

- 利用者の生活環境に関する事項 5件
- 利用者同士の対人関係に関する事項 0件
- 保護者への連絡・説明ミスに関する事項 1件
- 私物品の紛失に関する事項 1件
- 支援内容に関する事項 4件
- (何でも相談室の相談も含む)

利用者の生活環境に関する事項では、居室内の環境や、居室移動に伴う保護者の方のご心配からのご指摘がありました。

今後、全職員が苦情受付・苦情解決者として、利用者・保護者からの要望・相談を通して施設サービスの向上を目指していきたいと思っております。

苦情解決委員会 神谷 健太

行事予定

3施設全体行事

- | | |
|---------|----------------|
| 2/15~16 | 手をつなぐ
作品展 |
| 3/30 | 佐倉朝日健康
マラソン |



今号の編集を担当しました和久です。今年は20年ぶりの大雪が降り寒い季節になりました。その中ソチオリンピックが開催され、日本でも寒さを吹き飛ばす程熱く盛り上がりしました。

今号では「夢」というテーマで夢を語って頂きました。夢というのはエネルギーが溢れています。オリンピックでメダルをとる人達は、夢が達成されたエネルギーで満ち溢れている顔でした。夢を語る大久保学園のエネルギーで満ち溢れる姿をご覧ください。(和久)

はばたき

二〇一四 七六号

発行/平成二十六年二月

発行所/社会福祉法人 大久保学園

TEL 〇四七(四五七)二四六二

FAX 〇四七(四五七)四〇六九

URL http://www.okubogakuen.or.jp

Mail shienka@okubogakuen.or.jp

編集/大久保学園 広報委員会

表題書/大久保学園長 中原 強